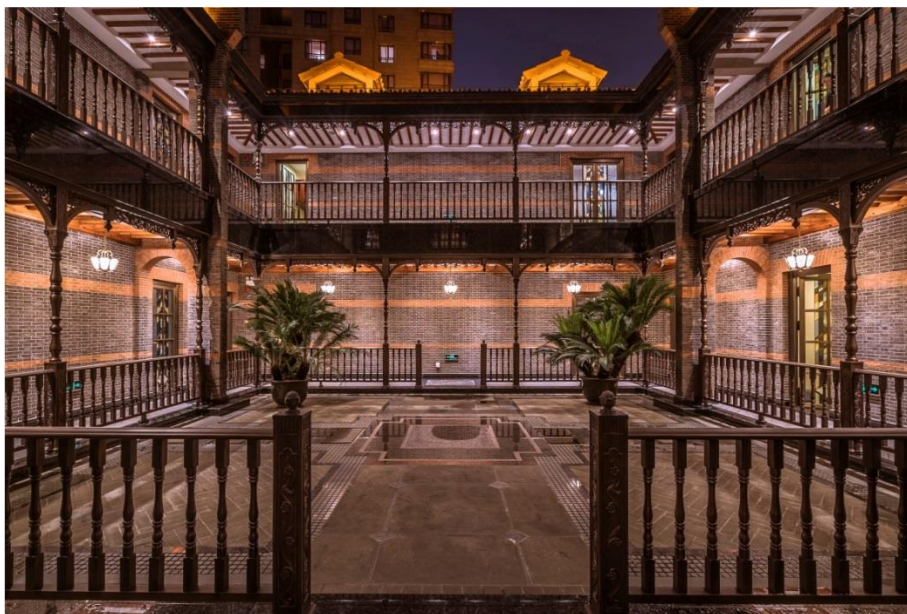


会館だより



2017年 1月号

No. 331

 公益財団法人 日中友好会館



目次

年頭のご挨拶

- ・(公財) 日中友好会館 理事長 荒井 克之
- ・(公財) 日中友好会館 中国代表理事 鄭 祥林

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「日中国交正常化45周年記念 上海歴史建築巡り写真展」

《日中友好後楽会》

- ・新春談話会

活動記録

- ・主催展「第一回日本工芸展 in 上海 高岡漆器2016」を終えて
- ・後楽会会員総会（もみじの会）
- ・小田原ホームステイ
- ・藤沢市視察体験学習に参加して
- ・日中友好加須市民会議結成40周年記念式典に参加
- ・はじめての防災体験
- ・国会見学記
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第28陣が来日
- ・「日中植林・植樹国際連帯事業」中国環境保護部代表団が来日
- ・「JENESYS2.0」アジア国際子ども映画祭2016参加訪日団が来日

会館行事と人の動き

表紙

南林師範学校跡

主催展「日中国交正常化45周年記念 上海歴史建築巡り写真展」より

新春展として2017年1月18日(水)～2月12日(日)の会期で開催します。
詳しくは本誌4ページにて。

年頭のご挨拶



(公財)日中友好会館
理事長 荒井 克之

明けましておめでとうございます。

年賀はがきの発行枚数は2003年の44億5,936万枚をピークに、年々減って来ているようで、2016年にはほぼ1975年に近い28億5,330万枚に減ってきています。平均余命は延びていても、もう年賀状を出すのは面倒だと思う人と、「年賀状」は出さなくても「スマホ」で用は足りると言う人が増えているのだと思われます。こんなところにも大きな時代の変化を感じています。

さて、日本と中国が国交正常化したのは、1972年（昭和47年）9月29日でした。今年は45周年に当たります。この45年の間にも日中の間には色々なことが起きました。特に中国の経済発展とそれに伴う政治力は全世界に大きな影響を与えています。この意味でも日中関係は新たな時代に入ったと思うのですが、私が日中関係を考える時に立ち戻りたいのは、日本人と孫文との交流です。

1900年広東での惠州蜂起で革命の犠牲となった日本人「山田良政」の菩提寺である月窓山貞昌寺（弘前市）には、孫文が宮崎滔天らに頼んで建立させたと言う次の文章が刻まれた石碑があります。

山田良政先生之碑

山田良政君弘前人也、庚子閏八月革命軍起惠州、君挺身赴義遂戦死、

嗚呼其人道之犠牲亜州之先覚、身雖殞滅而其志不朽矣

民国八年九月二九日

孫文 謹撰并書

新たな時代に入った日中関係を考えるとき、この碑文に大切なことを教えられているように思います。

本年が日中友好会館の事業を支えてくれる方々にとって良い年となりますように！

年頭のご挨拶



(公財) 日中友好会館
中国代表理事 鄭 祥林

新しい一年が訪れ、日中友好会館の事業の発展にご関心、ご支援を寄せていただいているすべての皆様に、謹んで祝福の意を申し上げます。新年明けまして、おめでとうございます。皆様のご健康と、すべての物事が順調でありますようにお祈りいたします。

荒井理事長が先の会館だよりのコラムで「仁義と南船北馬」について述べ、「為政」と「為人」のあるべき姿を示されました。私にとっても大変勉強になりました。「南船北馬」という成語を見ると、私は自然に「取長補短」＝「長所をもって短所を補う」、という別の成語を連想しました。ここで感想を述べたいと思います。

「南船北馬」。この成語はすなわち中国の古代において、地理環境により、交通の上で、南方は船を使うのが便利で、北方は馬を使うのが適することを意味しています。言い換えれば、南方の人は船を扱うのがうまく、北方の人は乗馬がうまい。つまり彼らにはそれぞれ優れているところがあります。「取長補短」は即ち相互学習と言え、他人の優れたところを学びとり、劣っているところに補うことです。ですから、北方の人は南方の人から船の扱い方を学ぶべきで、逆に南方の人は北方の人から乗馬を教わるべきでしょう。これは处世の道と言えます。

私の人生は多くの人々と出会い、交流をしてきました。あちこちの国々に行ったこともありますし、住んだこともあります。広い世界で、人々はそれぞれに異なる性格を持ち、国々はそれぞれに異なる特色を持っています。すべての人々には優れたところがあり、学ぶべき価値があります。

もしこのように常に謙虚な態度で、常に他人の長所を見ていけば、自らの短所に気づくことができます。互いの長所を取り入れ、短所を補っていけば、この社会とこの世界は必ず調和するでしょう。私たちは、中国から多くの青年たちを受け入れています。彼らが「訪問を通じて、日本には私たちが学ぶべきものが多くあると気づいた」と述べるのを聞いた時に、私はこれほど喜ばしいことはないと思います。

● 行事案内 ●

日中友好会館美術館

◆主催展

「日中国交正常化 45 周年記念 上海歴史建築巡り写真展」

会 期：2017年1月18日(水)～2月12日(日)

開館時間：10:00～17:00

*初日は14:30より開幕式。
当初の予定より30分繰上げになりましたのでご注意ください。

休館日：毎週月曜日

入場料：無料

主 催：(公財)日中友好会館、上海市歴史博物館

後 援：中国駐日大使館、中国文化センター、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(一社)日中協会



中蘇友好ビル（上海展覽中心）

高層ビルが立ち並ぶ、世界でも有数の国際都市である上海。しかし、川沿いの外灘(The Bund)に代表される地域には1920年代に建てられた多くの西洋様式の建築が残されており、市内には1920年代の中国の一般市民の共同住宅である「石庫門」と呼ばれる建築様式も残され現在も改築され活用されています。

本展では上海市歴史博物館と共催して、さ

まざまな顔を持つ魅力が詰まった上海を写し取った写真を展示いたします。

会期中に春節を迎えます(中国のお正月で、2017年は1月28日)。新春をお祝いするイベントもいくつか企画しましたので、ご来場をお待ちしております。



<美術館イベント>

・ギャラリートーク

1月18日(水) 開幕式終了後、来日した上海市歴史博物館の館員によるギャラリートーク。事前申込不要。

・ミュージアムミニコンサート

1月27日(金) 14:00～(40分程度)
出演：王明君

(昭和音楽大学准教授 笛子・洞簫奏者)

*座席をご希望の方は、電話かE-mailで事前にお申し込み下さい(先着50席、立ち見の場合は申込不要)。

・中国グッズ抽選会

新春をお祝いする空クジなしの抽選会を会期中毎日開催します。

・「上海歴史建築巡り写真」総選挙を開催!

会場内にあるアンケート用紙にお気に入りの展示写真を1点記入して投票してください。展覧会終了後、抽選で当たった方に選んでいただいたお気に入りの写真のミニバージョン(A4サイズ)をプレゼントします。

【問合せ】 文化事業部

TEL 03-3815-5085 FAX 03-3811-5263

E-mail : bunka@jcfcc.or.jp



日中友好後楽会

◆新春談話会

日 時：2017年1月12日(木) 17:00より

会 場：レストラン「豫園」
(日中友好会館 地下1階)

参加費：2,000円/人
非会員の方はお問い合わせください。

あけましておめでとうございます。

2017年最初の後楽会行事は、毎年恒例の新年会です。

会員、寮生が多く集まって賑やかに立食パーティを行いたいと思います(講義はありません)。この機会に2017年の行事へのご希望、ご意見などもお聞かせください。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 緒方

電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263

E-mail：kourakukai@jcfcc.or.jp



日中学院 特別講座①

中国結び講座のご案内

中国結びは、紐を結んで形を作る中国の伝統工芸です。みなみりょうこ先生をお迎えし、入門～基礎レベルの結び目の結び方、結び目の名前にこめられた意味、きれいに形を整えるコツを学びます。

皆様のご参加をお待ちしております。

開講期間：全8回 <毎週土曜日>

2017年1月21日(土)～3月18日(土)

16:00～17:30 (2月11日休講)

受講料：24,000円 ※入学金不要

材料費：800円～1,000円/1回

定員：10名

特別講座②

短期集中耳トレ中国語

聞く(耳から入る情報)だけで中検3級程度の内容の会話、短文を理解していくことを目指します。「聞く」ためのポイントをつかみ、苦手意識を克服しましょう!

開講期間：全8回 <毎週土曜日>

2017年1月21日(土)～3月18日(土)

16:00～18:00 (2月11日休講)

受講料：29,600円 ※入学金不要

教材：オリジナルプリント

講師：楊魁魁

【問合せ】日中学院

<http://www.rizhong.org/>

電話：03-3814-3591

● 活動記録 ●

◆主催展「第一回日本工芸展 in 上海 高岡漆器 2016」を終えて

これまで当会館では中国の文化・美術を日本で紹介して参りましたが、本展で初めて日本の工芸美術を中国で紹介いたしました。記念すべき第一回展は、経済産業大臣指定の伝統的工芸品である高岡漆器を上海美術工芸美術博物館で10月14日～20日の会期で展覧しました。10月14日に開幕式と内覧会が行われ、当会館から江田会長、荒井理事長、鄭祥林中国代表理事などが訪中し、上海市政協副主席周漢民氏や片山和之駐上海総領事をはじめとするご来賓約350名をお迎えしました。



開幕式でのテープカット(右4:江田会長)

展示会場では高岡漆器約70点を展示し、代表的な技法である勇助塗、青貝塗、彫刻塗の制作過程をパネルで紹介しました。また高岡漆器の伝統工芸士である武蔵川義則氏と折橋治樹氏の2名が訪中し、製作実演および来場者による製作体験を行い、中国の方々により深く高岡漆器について触れられるようにしました。10月15日には上海工芸美術職業学院にて武蔵川氏による講演会を行いました。

来場者は専門家や芸術家、大学教授、学生など専門性の高い方が多く、中でも若年層の来場が目立ちました。皆さん長い時間をかけ鑑賞しており、技術面などに関しても数多くの質問がありました。アンケートでは「日本の美意識が溢れる作品だった」、「現代と古典を融和している」、「精巧な技に驚いた」など

殆どが高評価でしたが、会場となった上海工芸美術博物館関係者からも改善点として「会期をもっと長くすべきである」というご意見も頂きました。来場者数は開幕式を含む7日間で約3,300人(約470人/日)でした。



会場の様子

本展を開催するにあたり国際交流基金と(公財)東芝国際交流財団から助成金を受け、また伝統工芸高岡漆器協同組合や上海工芸美術博物館をはじめとする日本・中国両国の関係者の皆様から多大なるご支援を頂きました。心より御礼申し上げます。(文化事業部)

◆後楽会会員総会(もみじの会)

第26回目となる、今年の会員総会は、11月25日(金)の夜、小石川後楽園内「涵徳亭」にて行われました。江田五月会長の開会挨拶を皮切りに、盛んに交流が行われ賑やかな会となりました。紅葉は見頃をちょうど迎え、後楽会会員、後楽寮寮生代表、会館役職員、総勢45名が集まりました。



開会挨拶をする江田会長

(後楽会事務局)

◆小田原ホームステイ

11月2日～4日、私たち5人は小田原ホームステイに参加させていただきました。2日午後、後楽寮を出発し、小嶋先生の家へ着くときにはもう暗くなっていました。寒かったので、小嶋先生が鍋料理を準備してくれました。鍋のスープは醤油、砂糖とみりんなどの簡単な調味料で作られたものですが、本当に美味しかったです。深く印象に残る、一生忘れられない味だと思います。

11月3日は大名行列を見学しました。文化の日ですので、日本各地で様々な行事を行います。箱根といたら大名行列でしょう。幕府時代、上京の唯一の通路として、参勤交代の大名なら箱根を必ず通らなければならなかったからです。

午後は、小田原城見学です。天守閣の屋上に立ち、眺望すると気持ちも広くなりました。これらの活動によって、箱根の歴史、小田原城の歴史、また日本の歴史を実感できるようになりました。



小田原城見学

一番楽しかったのは餃子作りと食事です。小嶋慎子先生、孫の深月ちゃんも一緒に餃子作りに参加しました。皆さんが作った餃子は、面白い形や変な形があり、皆で笑いました。一緒に行った許調理師の指導のいかにもあり、出来上がるとどの形も美味しく、小嶋先生に褒められました。小嶋先生はお酒が好きなので、みんなと一緒に少し飲みました。同時に、小嶋先生の教師経歴、国際友好交流の逸

話、酒匂の昔話など色々話しました。

最後の日は富士山眺望と海岸散策でした。あつと言う間に帰る時間になりました。わずか三日間の活動でしたが、本当に良い思い出が残りました。特に小嶋先生ご夫妻が三十年以上にわたって中日友好交流や国際友好交流の活動の促進に携わってこられたことに感心しました。

中日関係は困難な時期もありましたが、小嶋先生ご夫妻のような友好を愛する人々がいるからこそ、中日友好関係が現在のように良好になっていると思えました。

来日僅か二ヶ月のうち、このように意義のある活動に参加させていただきました。小嶋先生ご夫妻にも日中友好会館留学生事業部にも心から感謝の意を申し上げます。



お孫さんと一緒に

(後楽寮生 李梅)

◆藤沢市視察体験学習に参加して

今まで藤沢市に行ったことがないが、その美しい海景色や、水族館のこと等を友達から聞いたことがある。そのため、後楽寮で藤沢市観光協会による視察体験学習があると聞いた時、迷いもなく直ぐ応募した。

11月17日に、日中友好会館留学生事業部の先生たちと一緒に、藤沢市に行った。藤沢市観光協会の方々の案内で、聶耳の記念碑、

水族館、江の島を見学したり、蕎麦打ちや寿司作りを体験したりして、本当に楽しい一日だった。また「リサイクルプラザ藤沢」という破砕処理・資源化・環境啓発の役割を併せ持つ総合的資源循環施設も見学した。その高い技術力と、資源のリサイクル理念等には感心せずにはいられなかった。



リサイクルについての説明を聞く

私個人としては、藤沢市の海景色と水族館が一番好きだった。青い空の下の海、自由に泳いでいる魚類などを見ると、身心ともに癒されるような気がした。日常生活で様々な悩みやストレスを抱えている現代人にとっては、藤沢市は本当に息抜きできる素晴らしい所だと思う。



新江ノ島水族館にて

(後楽寮生 李煒)

◆日中友好加須市民会議 結成40周年記念式典に参加

11月19日に市民プラザかぞで行われた記念式典に鄭中国代表理事と留学生事業部、パフォーマンスとして後楽寮生が参加しました。

日中友好加須市民会議は1977年に加須市長夫人の梅澤三保初代会長を中心に設立、1982年には第1回中国人留学生宿泊交流会が開始され、毎年途切れることなく今年で第35回を迎えました。日中友好会館後楽寮生との交流は1987年の第6回から始まり、総勢889名がお世話になりました。また、2005年には日中友好会館の推薦で文部大臣賞を受賞しています。



挨拶をする石井会長

式典では石井敏郎会長の挨拶、大橋良一加須市長をはじめ、加須市議会議長や加須市教育委員会教育長、鄭理事が祝辞を述べられました。続いて、後楽寮生の王文強さんによる変面ショーがあり、後楽寮の国慶節祝賀会の様子をビデオで紹介、さらに孫悟空の戯曲パフォーマンスも披露しました。第2部の交流食事会では、日中友好加須市民会議の会員の方の歌やパフォーマンスなどで大いに盛り上がりました。留学生事業部からは中国の記念品を用意し、参加者の皆様に差し上げ、式典は盛会のうちに終了しました。

今後も日中友好加須市民会議のますますのご発展を願い、留学生事業部としてもできる限り協力していきたいと考えています。

(留学生事業部)

◆はじめての防災体験

「近いうち、東京へ遊びに行くけれど、何かお勧めの観光スポットある？」とよく中国人の友達に聞かれる。けれどいつもどう答えようかと途方に暮れる。東京は遊びに来るといふ選択肢以外にも何かあるはずだが、その中身がわからなかった。「防災体験だ」と今回わかり、これからは「ぜひ防災体験をやってみてください」と答えようと思う。

というのも、私は中国山西省出身で火災、地震、津波などの経験が全くない。災害が比較的少ない中国は、全体的に防災意識が希薄で、防災体験のチャンスにはなかなか恵まれないのが現状だ。けれど、誰でも我が身を守る災害発生時の知識や行動法は知っておくべきだろう。



消火訓練

待ちに待った防災体験だったが、思った以上のインパクトがあった。例えば火災が起きたときは煙などの有害物質が上の方へ行くこと、逃げ出す際は体を低くすること等、今までハンカチなどで口と鼻を守るしか知らなかった自分にとって、本当に大事な教えだった。

さらに、初めてマグニチュード7の地震を体験し、揺れの強さと大きさとで頭が真っ白になった。これは一生忘れない思い出だ。自然の威力の凄さと、災害の前では人間は無力であることを感じた。だからこそ、日頃地震に備えて非常食など物質面の準備すること、心構えといった心的な準備が必要ではないだろ

うか。

直下型大地震の発生を題材にしたドラマも印象的だった。お互いに助け合ったり、励ましあったりすることが、災害から脱出するのにどれだけ重要なのかつくづくと感じられた。人と人の絆が我々を心強くし、パワーを授けてくれるのだ。

(後楽寮生 張莉)

◆国会見学記

中国留学生友の会のお招きにより、11月28日、留学生事業部の夏瑛部長引率のもと、後楽寮生は国会見学に参加させていただいた。

午前10時頃国会議事堂に到着。その後、野田毅議員秘書の案内で、御休所、中央広間、化石の柱、衆議院などを見学した。政治の中心としての国会議事堂の立派さ、および日本が近代化に向かって歩いていた当時、西洋との関わりがあったことを実感した。とても歴史的な所だと思う。



国会議事堂前で記念の一枚

昼11時頃見学が終わり、衆議院議員会館へ行って野田毅議員の奥様である中国留学生友の会 野田みどり代表世話人・幹事長と一緒に昼食を食べた。

食事の時、野田夫人は、自分の故郷の九州では昔から中国との交流が盛んに行われてい

たと語った。距離が近いので「朝、中国の鶏が鳴くと、九州の人が起きる」という逸話も残されている。近代になっても、孫文と宮崎滔天の友好関係が広く知られている。このような歴史の流れの中で、野田夫人は、父親及び夫の野田議員と共に、日中友好交流事業及び中国留学生支援事業に長年協力している。



野田みどり世話人代表・幹事長の挨拶

野田夫人のお話を聞くと、日中友好交流はただ一代の事業ではないと強く感じた。野田夫人と野田議員たちは、昔からの友好関係をさらに増進させるために、努力している。このような方々のおかげで、歴史上の日中友好交流は、ただの「歴史」ではなく、今も発展している。だから私たち若者は、そのバトンを受け継いで明日へ持っていくべきではないだろうか。日本で日本を勉強して正しく国民に伝え、そして日中友好交流を続けることを頑張りたいと思う。これも、野田議員たちが私たち留学生に期待することである。

食事後、野田夫人から、お土産として衆議院と印字されたボールペンと国会限定のお菓子をいただいた。

この秋、歴史溢れる国会議事堂で、日中友好という壮大な事業をいかに続けるのかを考えさせられた。とても貴重な経験だった。

(後楽寮生 于婷芳)

◆ 「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第28陣が来日 196名が東京・島根・広島を訪問

2016年10月25日から10月30日までの8日間、中国大学生訪日団第28陣(団長:袁敏道 中国日本友好協会秘書長)計196名が来日した。本団は、中国の陝西省・湖南省・山東省の大学でボランティア活動に参加している学生と湖北省の大学で日本語を学ぶ学生で構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京・島根・広島にて、同じ専門を学ぶ日本の大学生との交流や、専門分野に関する視察・参観のほか、「クールジャパン」をテーマとしたさまざまなプログラムに参加し、政治・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。



中海で小舟に乗り藻刈りボランティアに挑戦
(島根/認定NPO法人自然再生センター訪問)

各地でボランティアや日本語について学ぶ

ボランティア分団は、まず都内で、(一財)富士福祉事業団の枝見太朗理事長による「日本のボランティア活動」をテーマとしたセミナーを受講したほか、早稲田大学を訪問し、WAVOC(早稲田ボランティアセンター)に関する取り組みや日本学生のボランティア活動経験の紹介を受けた。島根では島根大学を訪問。大学独自のボランティア活動推進の取り組みであるビビットポイント制度の紹介や、ボランティア活動に取り組む日本学生と意見交換

を行った。また、島根県ブリーフでは、行政・市民が密接に連携するボランティア活動推進の取り組みについて話を聞いた後、認定 NPO 法人 自然再生センター、NPO 里山笑楽校、出雲市総合ボランティアセンターをグループに分かれて訪問し、実際に活動体験・現場視察を行い、関係者と交流を深めた。



ホストファミリーとそば作り
(広島県安芸太田町・農家民泊)

日本語分団は、都内で国立国語研究所の石黒圭教授による「中国人学生の自然な日本語の話し方」をテーマとしたセミナーを受講し、普段の大学での授業とは異なる新しい観点から、日本語について学ぶことができた。また、都内では明治大学、広島では県立広島大学を訪問し、日本学生とさまざまな話題で交流した。さらに、広島県安芸太田町で農家民泊を行い、日本の一般家庭での生活やホストファミリーの温かさに触れたほか、県内で定期的に公演が行われている、一般市民が舞う神楽を鑑賞し、日本文化やその継承について理解を深めた。

そのほか、東京では砂町水再生センター・浅草・皇居二重橋・江戸東京博物館・日本科学未来館・東京タワー、島根では由志園・松江城・出雲大社、広島では広島市中工場（清掃工場）・厳島神社・広島城・広島平和記念公園を視察・参観した。

団員からは、「日本のボランティア活動は、社会問題の細部に至るところまで検討した上で活動していることに驚いた」「各大学では独

自のシステムを用い、工夫しながら学生のボランティア活動推進に取り組んでいて、大変参考になった。また、日本では学生や市民が主体となり、自身で考え、自身の意志でボランティア活動を行っている姿勢に感銘を受け、「見習いたいと感じた」「ホームステイでは優しいホストファミリーと一緒に、ご飯を作ったり、色々お喋りをしたり、日本の生活を体験することができた」「日本の学生との交流を通じ、互いの国について、メディアで報道される限られた情報の知識しかなかったことが分かった。日中両国民が互いを理解するためには、今回のように直接交流する機会が大切だと実感した」など、思い思いの感想が聞かれた。

今回の経験は、学生たちの個々の学びや今後の将来の目標に、何らかの形で確実に繋がっていくに違いない。本団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆ 「日中植林・植樹国際連帯事業」 中国環境保護部代表団が来日

一行 29 名が東京・愛知・三重・静岡 を訪問

2016年10月30日から11月6日までの日程で、中国環境保護部代表団(団長＝李永紅 中国環境保護部 国際合作司アジア処 処長)が来日した。本団は、中国環境保護部および関係機関に所属する青年で構成された計29名で、今年から外務省が実施する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として招聘した。

代表団は、東京、愛知、三重、静岡を訪問し、環境行政関係者や関連企業、施設の訪問・視察・交流や、防災施設の視察を行ったほか、静岡県で植樹活動に参加した。また、各地で

文化や自然、科学技術などを体感できる施設を視察し、包括的な対日理解を深めた。

日本の環境保全や原子力安全、公害問題の克服について学ぶ

代表団は東京で、環境省の鎌形地球環境局長を表敬訪問し、その後2グループに分かれて環境省から「経済発展方式のグリーン経済」、原子力規制庁から「原子力規制委員会について」をテーマにそれぞれブリーフを受け、職員との意見交換を行った。また、(一財)日本環境衛生センターでは、福島原発事故当時、環境事務次官であった南川理事長から、福島事故対応の経験について話を聞いた。団員からは環境問題の情報公開義務、原子力技術を応用する民間企業の検査について、再生可能エネルギーの相乗効果などの質問が挙がった。



環境省で再生可能エネルギーについて紹介を受ける

三重県では四日市公害と環境未来館を訪問し、甚大な大気汚染が起こり、公害問題が深刻となった経緯や、経済優先で環境は後回しとされた当時の時代背景、公害克服までの過程について説明を受けた。館内を視察した後、四日市市の環境部門の職員と意見交換を行い、中国の現状と比較し、今後中国ではどのような対策をすべきか考えるきっかけとなった。また、四日市市の住宅街にある、JSR(株)訪問では、工場の環境・安全への取り組みに関する説明のほか、周辺住民とのコミュニケーションについて紹介があった。工場と住宅街の間

に20メートルの防音壁が設置されており、その奥に緩衝地帯として設けられた人工里山には多くの蝶々が飛来しており、団員は工場すぐ横の里山環境が印象深い様子だった。

民間の環境保全の取り組み、防災・減災を体感

愛知県では名古屋市にある藤前干潟・稲永ビジターセンターを訪問。干潟の歴史と保全の取組についての話を聞き、干潟の埋立計画発表から市民が反対運動に参加した「藤前干潟を守る会」との交流を行った。また、静岡県ではNPO法人時ノ寿の森クラブの森林・里山保全活動についてレクチャーを受けた。団員は熱心に話を聞き、日本の一般市民の環境保全に対する意識の高さに感心していた。また、名古屋市港防災センターでは、地震、津波3D、煙避難を体験した。団員は地震発生時取るべき行動、津波の恐ろしさ、家庭でできる対策など学び、日頃の備えや減災の大切さを実感した。

静岡県で植樹活動に参加

代表団は静岡県にて、掛川市立横須賀小学校の児童と一緒に、植樹活動に参加した。苗木は児童たちが3年かけて育てたどんぐりの木等2,000本で、潮害の防備、飛砂・風害の防備等の災害防止の役割を果たす防災林として植樹し、住民が地域を災害から守る環境保全について理解を深めることができた。言葉は通じなかったが、英単語を並べてみたり、日本語や中国語を教え合ったりするなど、児童との交流も楽しんだ。

そのほか一行は、東京で増上寺、皇居、国会議事堂、江戸東京博物館、愛知で名古屋城、トヨタ産業技術記念館、三重で四日市港ポートビルを参観し、さまざまな角度から日本の魅力を満喫した。7日間を通して、日本に対する理解や関心を高めるきっかけとなった。



掛川市立横須賀小学校の児童と防災林を植樹

ほとんどの団員は初来日だったが、プログラムを通じ、「行政、企業が実施している環境汚染対策や、大気汚染公害の経験についてのレクチャーは大変参考になった」「日本が取り組んでいる環境や防災教育に感銘を受けた。中国でも取り入れるべきだと思う」「今後、環境分野においてより一層の日中協力が必要だと感じた」「日本人は思っていた以上に友好的で、温かく迎えてくれて感動した」などの感想が聞かれた。

本団の受け入れにご協力くださった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆「JENESYS2.0」アジア国際子ども映画祭 2016 参加訪日団が来日

2016年11月22日から11月30日までの日程で、「JENESYS2.0」アジア国際子ども映画祭 2016 参加訪日団 計9名が来日した。本団は、第10回アジア国際子ども映画祭に作品を制作出品した中国高校生を中心として構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘された。

訪日団は、東京と北海道を訪れ、北海道北見市にて、第10回アジア国際子ども映画祭に関連するプログラムに参加したほか、各地で日本の社会や文化、自然、先端技術に関する

視察など、さまざまな活動を行った。

北見で映画祭や交流プログラムに参加

北海道北見市で、まず、北見市表敬・ウェルカムセレモニーに出席し、第10回アジア国際子ども映画祭に作品を出品した15カ国・地域の団員が北見市から歓迎を受けた。また、他国・地域の団員とともにカーリング体験や交流会・夕食会、オホーツク国際ふれあい広場に参加し、各国・地域団員や北見の小・中・高校生や市民、留学生と交流を深めた。映画祭作品視聴及び映画祭本選大会は海外及び国内各ブロックからの応募作品を鑑賞し、受賞作品が発表された。残念ながら中国の出品作品は入賞しなかったが、団員からは「さまざまな国・地域の優秀な作品を鑑賞し、それぞれの国の違った背景・文化を知るとともに、たとえ素朴な作品でも人々の心を打つことができ、自分の考えを表現することが重要だと学んだ」「交流会で出会った様々な国の参加者と交流し、友達になれた」との感想が聞かれた。



アジア国際子ども映画祭本選

高校訪問と北海道・東京での参観

また、一行は東京都立葛飾総合高校を訪問した。中国語入門や社会の授業に参加し、日本の高校生活を体験したほか、日本高校生と交流を深めた。

その他、北海道、東京にて日本の社会や文化などに関する視察参観を行った。北海道で

は、北見ハッカ記念館、アイヌコタンを参観し、地域の文化と歴史への理解を深めたほか、遊覧船にて阿寒湖を渡り、マリモ展示観察センターにてマリモを観察した。また、ポッケ自然探勝路ガイドツアーに参加して阿寒湖周辺の森を散策し、北海道の雄大な自然に触れた。



ポッケ自然探勝路ガイドツアーで
阿寒国立公園の森を散策

また、網走では和風旅館に宿泊し、日本文化を体験した。東京では、国立科学博物館にて360°シアターを鑑賞したほか、皇居・二重橋や東京タワー、浅草寺、江戸東京博物館、おりがみ会館を訪れ、先端技術や文化、歴史への関心を高めた。

団員からは、「日本の高校生は冷淡だと思っていたが、実際はとても温かく友好的だった」「雪は寒いし鬱陶しい印象しかなかったが、北海道の自然に触れてその雪景色の美しさに認識を改めた」「この感動や日本の美点を国に持ち帰り、もっと広い視野で日本を理解するよう伝えたい」といった感想が聞かれた。

本団の受け入れにご協力くださった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

寄附のお願い

後楽寮運営に対するご寄附による
ご支援をお願い致します。

◇目的

当公益財団が運営する後楽寮は、中国人留学生、研究者の寄宿舍であり、1985年に建設されました。約4千名の寮生0Bは中国各地及び日本で活躍し、両国の相互理解促進と安定した関係構築に大きな貢献をしております。彼らの留学生生活を支援し、日中の架け橋となる人材を養成します。



後楽寮

◇寄附金の使途

- (1)寮生の生活環境の整備
- (2)寮生の対外交流活動支援
- (3)寮生自治活動支援
- (4)後楽寮生0B会活動支援
- (5)その他必要な支援

◇寄附の方法

下記口座宛、銀行振込でお願い致します。

三菱東京UFJ銀行 神楽坂支店(店番052)

普通預金 口座番号 0091570

口座名 公益財団法人 日中友好会館

理事長 荒井克之

*振込手数料は当方で負担いたします。払込取扱票を送付いたしますので、ご連絡ください。

寄付額 個人の場合 一口 1万円

法人の場合 一口 10万円

当公益財団は、所得税法施行令第217条第1項第3号及び法人税法施行令第77条第1項第3号に掲げる公益財団法人であり、寄附は、税法上の控除対象になります。領収書を発行致しますので、寄附者のお名前、ご住所等をご連絡下さい。

【連絡先】公益財団法人日中友好会館 総務財務部

担当：英(はなぶさ)、松島

電話：03-3811-5317 FAX：03-3811-5263

E-mail：hanabusa@jcfcc.or.jp



会館行事と人の動き 11/1～30

● 会館行事

- 11/ 1～11/ 4 ▶ 小田原ホームステイ (後楽寮生)
 11/ 1～11/ 4 ▶ 貸美術館催事「劉田依 東京書画展」
 11/ 6～11/13 ▶ 「JENESYS2.0」2016年度中国青年メディア関係者代表团第2陣 来日
 (11/7 同団歓迎会、11/12 歓送報告会)
 11/ 7～11/13 ▶ 貸美術館催事「第19回 国際水墨画交流展」
 11/ 8～11/16 ▶ 「JENESYS2.0」2016年度中国高校生訪日団第3陣 来日 ※他団体実施
 (11/9 同団歓迎会)
 11/10 ▶ 後楽会中国画教室
 11/12～11/13 ▶ 第26回中国文化之日「中国大黄河雑技団・中国呉橋少女雑技団公演」
 11/15 ▶ 第4回日中友好岸関子賞最終選考会(荒井理事長、武田顧問、日中友好岸関子賞選考委員会)
 11/15～11/19 ▶ 「JENESYS2.0」第二十一回中国教育関係者代表团 来日
 (11/15 同団歓迎会、11/18 歓送報告会)
 11/17 ▶ 後楽会気功・中国画教室
 11/18～11/22 ▶ 貸美術館催事「中日禅文化書画交流展」
 11/22～11/29 ▶ 「日中植林・植樹国際連帯事業」若き津波防災大使 来日
 (11/28 同団歓送報告会)
 11/22～11/30 ▶ 「JENESYS2.0」アジア国際子ども映画祭2016参加訪日団 来日
 (11/29 同団歓送報告会)
 11/24～11/30 ▶ 貸美術館催事「日中友好書法交流展」
 11/25 ▶ 後楽会会員総会(もみじの会 於: 涵徳亭)

● 行事参加、その他の活動

- 11/ 5 ▶ 後楽会(中国)友好聯誼会年会(荒井理事長、留学生事業部 於: 北京)
 東京ドームシティー見学会(後楽寮生、留学生事業部)
 11/ 8 ▶ 東京中国文化センター 写真展「孫文と華僑・華人」開幕式(荒井理事長、鄭理事)
 11/13～15、23～24、26
 ▶ 「SAKURA-JAPAN IN THE BOX-」留学生宿舍特別無料モニター鑑賞(後楽寮生 於: 明治座)
 11/17 ▶ 藤沢市視察体験学習(後楽寮生、留学生事業部)
 11/18 ▶ (公財)高山国際教育財団 創立15周年記念式典(留学生事業部)
 11/19 ▶ 日中友好加須市民会議 結成40周年記念式典(鄭理事、留学生事業部)
 池袋防災館防災体験(後楽寮生)
 11/27 ▶ 第5回富士山マラソン出場(後楽寮生、留学生事業部)
 11/28 ▶ 中国留学生友の会主催 国会見学(後楽寮生、留学生事業部)
 11/29 ▶ キャノングローバル戦略研究所講演会「アジア太平洋地域の課題と日中関係の展望」
 (荒井理事長)

2017年1月1日発行 第331号



発行 公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>